

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170501480		
法人名	有限会社 ケイアンドケイ		
事業所名	グループホームほほえみ Aユニット		
所在地	札幌市白石区平和通15丁目北2-12		
自己評価作成日	平成29年2月1日	評価結果市町村受理日	平成29年3月14日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaikokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kan=true&JigvsoyCd=0170501480-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成29年2月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者一人一人がその人らしく、心地よく生活が出来るよう、その方が何を望み、何を必要としているのか、どのように支援することがその方にとって最善なのかを、毎月のカンファレンスや日々の業務の中で職員同士話し合い、ご家族の意見も伺いながら、より良いケアが出来るよう努めている。利用者の、その時の状態を知る為にも、毎日の生活記録は具体的に細かく、その時のその方の様子が目に浮かぶように記載することを心掛け、気づいた事は口頭で伝える他、連絡ノートを使用し、他の職員にも周知させ、意見を出し合ったり、統一したケアにつなげている。また、ヒヤリハット報告書を活用し、他ユニットにも回覧する事で、ユニットだけの問題にとどめず、事業所全体で事故防止に努めている。生活に張りを持ち、出来る事を継続して行いながら、楽しく生活が出来るよう、その方の持てる力に合わせて一緒に家事活動を行ったり、散歩や買い物、馴染みの美容室に出掛けたり、時には職員や他のユニットの利用者様と敷地内で花火をしたり、外食や、花見など外出の機会を作っている。また、「家族連絡票」を活用し、伝え漏れをなくし、伝えた内容、ご家族からの意見やその後の経過がどの職員にもわかるようにし、面会時にはお茶をお出しし居室でご本人とゆっくり過ごしてもらいながら、職員とも話をする時間を作り、信頼関係の構築にも力を入れている。地域とのつながりも大切にし、定期的な運営推進会議の中で意見交換を行ったり、地域の行事に参加したり施設の行事に参加して頂いたり、地域の方との親睦を深める他、避難訓練にも参加して頂き、緊急時の協力体制を築いている。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホーム ほほえみ」は、近くに公園があり川も流れる自然の豊かな住宅地にある2階建て2ユニットのホームである。建物内に中庭を設けて冬季も花や植物の観賞が出来る。共用空間は環境行動学の視点から設計されており、利用者の自由な移動とプライバシーに配慮した造りで、安全面の見守りができるような工夫が随所に見られる。隣接している同法人事業所と合同で夏祭りや運営推進会議、避難訓練を行い、町内会の協力を得る一方、町内会の資源回収や防犯協力店に加入して地域との関係作りを深めている。毎月ボランティアの来訪や年数回の実習生も受け入れている。3年前に就任した管理者は職員の自発性を活かして業務に関われるよう環境づくりを工夫している。ユニットごとに業務の分担を職員間で決め、自主的な参加で運営に関わっている。法人研修の他、事業所内で新人研修、接遇、身体拘束の弊害などを学び、職員は個別の状態に沿って丁寧に対応している。ケアマネジャーを中心に担当職員のモニタリング・評価を基に会議で話し合い、毎月介護計画を更新している。利用者は地域の行事や事業所の夏祭りに参加し、小学生や保育園児と交流する機会もある。常に家族とコミュニケーションを密にしながら利用者の暮らしを支え、利用者の希望に沿って個別の外出を計画し、季節の外出行事も行っている。時には好みの献立に変更して買い物や調理を職員と一緒にしたり、おやつ作りにも参加している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほほ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほほ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほほ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほほ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほほ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほほ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほほ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほほ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほほ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほほ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほほ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(Aユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	フロア内に事業所理念を掲げている。日々のケアの中での問題点を話し合う際に、理念を再確認し実践に繋げるように努めている。	地域密着型サービスの文言を入れた法人共通のケア理念を事業所理念として据え、職員の採用時に説明するとともに、職員間で共有している。ケアを行う中で課題がある時は、理念に照らして対応を確認している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	盆踊りやお祭りなど、地域の行事に参加し、交流の機会を作っている。また、避難訓練に参加して頂くように声掛けしている。町内会の資源回収に協力したり、防犯協力店に加盟し、お互いに支えあえる関係性を築いている。	行事の機会に地域住民と交流し、事業所の花火大会に小学生を招待したり、保育園児の太鼓演奏を聴いている。毎月ボランティアによる触れ合いマッサージの提供を継続している。近所の人から事業所の花壇に苗を植えていただくこともある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や避難訓練の際に、認知症の方の行動や支援の方法について話す機会を設けたり、積極的に実習生を受け入れ、人材育成に貢献している。又、町内会館や運営推進会議の中で認知症サポーター養成講座の開催を検討している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度運営推進会議を開催し、外部評価や避難訓練などで受けた話を報告し、御家族からの意見・要望を聞く場を設けたり、事業所としての改善点をお伝えし、サービスの向上に努めている。	隣接の同法人事業所合同で会議を開催し、各事業所報告の他、地域包括支援センター職員より介護保険外サービスなどの情報を話題に意見を交換している。会議案内にテーマを記載し、参加できない家族の意見を会議に活かしたいと考えている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市に月初めに入居状況の情報提供を行っている。事故報告書などの報告書を提出し、改善に向けて助言を頂いたり、市が主催する集団指導・管理者連絡会に参加している。	書類の提出は市の担当者に直接渡し、事故防止などを報告する中で相談している。またアンケートの依頼がある時は協力している。区の生活保護担当者に利用者の受診などを連絡している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束、不適切ケアについての研修会を毎年行い、研修を通して自分たちのケア(言葉・態度・対応)の振り返りを行い、身体的にも精神的にも拘束をしないケアに努めている。また、日中は玄関を施錠せず、開放的なケアに努めている。	職員採用時に作成した資料を基に身体拘束禁止についても指導している。内部研修で拘束をしない方法を話し合い、身体拘束禁止行為11項目の内容を記述式で確認し全職員が理解を深めている。外に出たい利用者の様子を見守り、意向に沿って対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待についての研修会を毎年行い、学びを実践につなげる為、虐待の定義、身体拘束の禁止事項を事務所の目に付く場所に掲示し、日頃から意識し、日々の業務の中でも話し合い、無意識にも拘束、虐待につながるケアを行わないよう努めている。		

グループホーム ほほえみ

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(Aユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部の研修会に参加したり、運営推進会議の機会に司法書士を招いて講話して頂いたことはあるが、職員全員が制度を理解して支援できる体制は整っておらず、今後事業所内の研修会などで学ぶ機会を作っていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には時間をかけて説明し、不明な点や不安な点など伺い、納得を得て契約できるようにしている。また、契約内容の改定時には、説明会を開催する他、必要に応じて個別の相談に応じ、同意を得るようにしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	話しやすい関係性を築けるよう努め、運営推進会議で話し合う機会を設けたり、面会時に意見を伺い、頂いた意見や要望はユニットに留めず、運営推進会議や管理職会議などで、地域の方や他のユニットにも周知し、運営に反映させている。	電話や来訪時に家族とケアの方法と一緒に話し合い、意見や連絡事項は利用者ごとの「家族連絡表」に記載し共有している。管理者は、毎月の担当職員からのお便りとともに、職員の採用や退職、受診内容を報告している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員からの意見や提案は聞ける状態にある。すぐに取り決める意見等は取り組むようにしている。中々取り組めない意見はみんなで話し合いし、どのようにすれば、取り組めるか、職員同士で決めている。	毎月のユニット会議で介護計画の見直しやケアについて話し合い、業務改善などは職員間で意見を出し合い決めている。管理者は業務の担当制を廃止し、職員の自発性を活かして、現場で検討して決められるような環境づくりを工夫している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者が現場に来ることはないが、勤続年数に応じて記念品を贈ったり、勤続年数、保有資格によって条件を優遇したりと、向上心を持って働けるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	経験年数に合わせた法人内の研修会を実施し、学びと実際のケアが結びつく様働きかけている。また、外部の研修会の案内を提示し、職員一人一人に合った研修会への参加を勧めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の事業所と合同研修を開催する他、関連のある薬局と薬に関する研修会を行ったり、実習生を受け入れて日頃のケアの見直しを図りサービスの質の向上に努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(Aユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に直接面会し、ゆっくり話をして顔見知りの関係性を作ることで、安心してサービスを利用できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の話をじっくりと聞き、事業所で出来る事やケアの提供の仕方を伝え、不安や希望をお聞きし、要望には可能な限り答えられるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族や本人の話を聞き、本人の様子を見極め、その時最善と思える方法を一緒に考え、提案している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の特性を知り、言葉の掛け方に工夫している。又、家族に近い存在に思ってもらえるように考え、関係性を築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	誕生日などがある際に、声を掛け一緒に祝ったり、面会に来られた際に、居室にて家族で過ごせるようにしている。又、面会に来れない方には、月に1度家族さんに一か月の様子を書き送っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	会話の中で、質問を投げかけ、本人が覚えている思い出、人を聞き出し、話の話題にする事で、記憶として残るように努めている。又、出来るだけご家族が面会に来た際に尋ねたりするように心掛けている。	近所に住んでいた友人が1～2ヵ月期間で来訪している。家族の協力で買い物や外食を楽しむ利用者もいる。家族に毛糸を届けてもらい、趣味の編み物が続けられるように支援している。会話から馴染みの店を聞き、外食行事に取り入れている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レク活動や食事・おやつ等で全利用者が集まる時は、職員が仲介役になり、全利用者に平等に会話を振り、利用者同士が話が出来るように努めている。利用者個々の状態を把握した上で、他者と交流の場面を作ったり、トラブルが起きた時はすぐに対応する事で不安なく生活できるようスタッフが調整役をしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(Aユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了した方で、入院された方は病院に見舞いに行くようにしている。亡くなった時はお葬式に行っている。また、家族から相談があった際は、できる限りの支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の表情や動作で何がしたいかみ取るようにしている。意思疎通が困難な方は、家族の希望や本人のこれまでの生活を頭に入れ、検討している。危険な行動でない限り、本人のしたいは、希望に添ってして頂いている。	会話が難しい場合も、残食など気になる点がある時は別シートで状態をチェックし、意向に沿えるよう対応している。利用開始時のセンター方式シートに記載してある本人の趣味や嗜好をケアの参考になっているが、更新や追記などは行われていない。	6ヵ月毎に更新しているアセスメントシートを活用し、趣味や嗜好の変化なども追記しながら書面でも利用者の現在の想いを把握できるよう期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	馴染みの生活ができるように、本人や家族から情報を得たり、生活歴を確認し、本人が混乱等なく以前と変わりなく過ごせるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員間で、気づいたことがあれば、報告、相談し話し合いする様に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月、モニタリングを行い、カンファレンスをし、一人一人の状況を把握し、どのようなケアが必要か話し合い意見交換している。そこで話し合いし、介護計画を作成している。	担当職員がモニタリング・評価を行い、カンファレンスで対応方法の確認や家族とも話し合い、毎月更新計画を作成して同意を得ている。計画を参照しながら日々の記録を行い、サービス内容の変化なども記載して見直しにつなげている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者さんの気付きはその都度、全職員に伝えられるように申し送りや連絡ノートに書くようにしているが、時々、情報が伝わっていない事があり、連携が不十分の時がある。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者が入院した時に、交通機関がなく通うのが難しいご家族は、面会日を合わせて施設が車を出し職員と一緒に行くなど、ニーズに合わせて柔軟な支援を心掛けている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	避難訓練や救急救命などで消防の方と情報を交換したり、町内会長さんや地域の方と意見交換している。町内行事にも声を掛けてもらい、良い関係を築いていけるように努めている		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診時は、キーパーソンと相談し、日付けや相談内容を伝え、病院に受診している。家族から希望があれば、その病院に受診もしている。体調が急に変化した場合は、職員同士相談し、訪問診療にて、医師への伝達もしている。	協力医療機関の派遣で、内科医や精神科医の訪問診療を受けている。専門的な他科受診は、ほぼ事業所に対応し、必要に応じて家族も同行したり、病院で待ち合わせている。受診内容は利用者ごとに往診記録と別に受診記録を整備している。	

グループホーム ほほえみ

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(Aユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調の変化に早めに気付くことが出来るように、職員間で利用者の情報交換をし、変化がある時は、訪問時に相談している。訪問以外にも変化がある時は、クリニックに連絡し、相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際は、利用者の様子を見に行ったり、病院側と情報交換し、早期に退院できるように努めている。病院から退院した後も、本人が悪化しないように、病院側と今後の生活について、相談している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した利用者の場合、早めに職員間で話し合い、話し合った内容を、家族に納得するまで話し合う。その後、こまめに家族と連絡取り合い、協力医療機関とも話し合いを重ね、本人が残りの生活を安心して暮らせるように支援している。	「入居者が重度化した場合の対応に係る指針」を利用契約書に添付し、医療行為が必要な場合は対応が難しいことを説明し同意を得ている。ミキサー食など形態を変えて可能な限り対応し、経口摂取が難しくなった時は入院方向になっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に救急救命の講座を開催、すべての職員が参加できるように、行っている。事務所内にもマニュアルを提示し、急変時にすぐに、対応できるようにしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、夜間を想定した避難訓練を行っている。また、避難訓練には毎回町内の方にも参加して頂くように声を掛けているが中々、参加の機会を得られていないのが現状である。	2回とも消防署の立ち会いで夜間を想定した避難訓練を実施し、1回は運営推進会議と同日に行い委員の参加を得ている。防災マニュアルに沿って日中を想定した地震などの自主訓練を行い、アンケートを実施して次回につなげている。	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人の気持ちを尊重し、一人一人に合わせた声の掛け方をし、誇りやプライバシーを損ねないように、言葉の掛け方に気をつけている。使わなくなった個人情報にはシュレッダーを掛け処分している。	採用時に接遇研修を実施し、不適切な言葉かけなどがあれば職員同士でもお互いに注意している。申し送りは利用者から離れた場所で行い、個人名を出さないように部屋番号順に行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個々に合わせて質問の仕方など変え、決めやすいように二者択一で質問したり、選択肢を提案したりし、自己決定できるよう努めている。また、意思表示の難しい方からは、表情や仕草から思いを汲み取るよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の流れはおおまかには決まっているが、その日の様子や拒否があった時は、時間や日付を変えてみたり、いつもと違う事を促してみたりと、生活のメリハリは意識している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみや洋服の組み合わせの配色などを考え、着替えを用意している。利用者にも選んでもらう場面を作ったり本人の馴染みの衣類をそのまま使用している。		

グループホーム ほほえみ

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(Aユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	決まったメニューの中でも、味付けを変えてみたり、利用者の好む調理法を選択し、提供している。また、下処理や調理法を利用者に教わったり、盛り付けや片づけなどを一緒に行っている。	利用者の好きな献立に変更して、買い物から調理まで一緒に行うこともある。玄関ホールでおやつを食べたり、ホットケーキやかき氷などを作って楽しんでいる。誕生日に外食に出かけることもある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分が進まない利用者には、飲み物を変えたり、コップを変え工夫している。利用者の食量や水分量を把握している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は口腔ケアをして清潔を保つと共に、口腔内に異常が無いか観察するようにしている。口腔ケアが難しい方には歯科医に相談しその方に合った口腔ケアの実践方法をアドバイス頂いている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表とその人の様子から、排泄パターンを把握し、出来るだけトイレで排泄が出来るように誘導し、必要に応じてカンファレンスなどで都度話し合いを行い、その方に合わせた対応に努め、排泄行動そのものが身体的負担になってきている方に関しては、本人の状況に合わせ、負担が少なく排泄できるよう支援している。	全員の排泄を記録して個々に応じた声かけや誘導を行い、自分でできる行為は本人で行って貰いながら自立に向けて取り組んでいる。プライバシーに配慮しながら可能な限り同性介助で対応し、立位が可能な方は、昼夜共にトイレでの排泄を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝、牛乳を促したりしている。全利用者ではないが、体操や軽い運動をし体を動かしている。個別の活動が中々出ていない日がある。なるべく薬には頼らない様にはしているが、状況によって服用している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日や時間帯はほとんどが職員の方で組んで入浴している。本人の希望や体調に合わせて入浴の日を変えたりしている。状況によってシャワー浴にするなど利用者に合わせ入浴している。	午前から午後の時間帯で、同性介助を基本に週2回以上の入浴を支援している。身体状況に応じてシャワー浴で対応することもある。浴槽のお湯を交換したり、石鹸や体を洗うタオルの材質などに配慮して気持ちよく入浴できるように工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人に合わせて、日中休憩時間を作ったり、活動に参加して頂き、メリハリのある生活リズムを作り、夜間良眠できるよう努めている。また、本人の体調なども見て、長めに休む時間を作ったり、無理に起こさず休んで頂いたり、臨機応変に対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服の変更等がある場合は、全職員が伝わるように、連絡ノートに記載し、確認した職員はサインしている。全職員が利用者の薬の効果や薬の名前がわかるように、別紙にいつ飲むか、名前、効果を書き出しいつでも確認できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	趣味のある話題や趣味を引く話題を提供している。その他に本や物を渡し、職員と一緒にいたり、利用者に教えてもらったりしながら、日々を過ごしている。		

グループホーム ほほえみ

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(Aユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望をあらかじめ伺い、出来るだけ添えるよう調整を行っている。また、買い物や外食など、その人が喜ばれる事を探し、一緒に出掛けられるよう支援している。日常的にも、近所の公園まで出かけたり、施設内の畑や花壇を見に行ったりと、外の空気に触れる機会を作っている。	利用者の希望に応じて、カラオケや書店、ビール工場や札幌ドームなどに出かけている。白石サイクリングロードに花見に出かけたり、いちご狩りで北広島方面に出かけている。冬季も、白石神社に初詣に出かけたり、受診の帰りに好きなお店に立ち寄ることもある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	安全面を考慮し本人に現金は渡しておらず、金庫にて保管している。買物はほとんどが、職員が行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者から電話したり、手紙を書いたりすることがないが、手紙や年賀状が届いた際は本人に渡している。意思疎通が困難な利用者の家族から贈り物があつたときは職員が代わりに電話している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じて雛人形・こいのぼり・クリスマスツリーなど季節にあつた物を飾ったりしている。飾り付けできる利用者とは、一緒に飾りつけをして、季節ごとに一緒に楽しんでいる。危険な物はなるべく置かず、トイレなどは目印を付けたりしている。	広々とした開放感のある共有スペースは、格子の壁で仕切られており、他の方の視線を気にすることなく好きな場所で落ち着いて過ごせるような造りになっている。利用者の写真や習字作品を掲示したり、絵画や観葉植物、雛人形なども飾られており、季節を感じながら居心地よく過ごせるように工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間以外にもソファを置き一人になれる空間を用意している。気が合う同士、席を近くにしたり、自由に過ごすことができる環境作りをしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の家具や飾りは、出来るだけ本人の馴染みのある物を置き、配置は本人、家族と相談しながら、安全面にも考慮しながら設置している。	使い慣れたテーブルや椅子、タンスや鏡台などを持ち込み、クローゼットを活用しながら整理して落ち着いて過ごせるように工夫している。壁に自分の作品や写真、カレンダーや職員の手作りカードなどが飾られており、その人らしい居室になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの表札をわかりやすいように大きく書き、居室前には本人の名前と写真を付け本人の部屋だと分かるようにしている。又、勤務内での話し合いや毎月のカンファレンスで利用者それぞれの認知に合わせた関わりや出来る事を見極め、アプローチをする様にしている。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170501480		
法人名	有限会社 ケイアンドケイ		
事業所名	グループホームほほえみ Bユニット		
所在地	札幌市白石区平和通15丁目北2-12		
自己評価作成日	平成29年2月1日	評価結果市町村受理日	平成29年3月14日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kan=true&JigrosyoCd=0170501480-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成29年2月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者一人一人がその人らしく、心地よく生活が出来るよう、その方が何を望み、何を必要としているのか、どのように支援することがその方にとって最善なのかを、毎月のカンファレンスや日々の業務の中で職員同士話し合い、ご家族の意見も伺いながら、より良いケアが出来るよう努めている。利用者の、その時の状態を知る為にも、毎日の生活記録は具体的に細かく、その時のその方の様子が目に浮かぶように記載することを心掛け、気づいた事は口頭で伝える他、連絡ノートを使用し、他の職員にも周知させ、意見を出し合ったり、統一したケアにつなげている。また、ヒヤリハット報告書を活用し、他ユニットにも回覧する事で、ユニットだけの問題にとどめず、事業所全体で事故防止に努めている。生活に張りを持ち、出来る事を継続して行いながら、楽しく生活が出来るよう、その方の持てる力に合わせて一緒に家事活動を行ったり、散歩や買い物、馴染みの美容室に出掛けたり、時には職員や他のユニットの利用者様と敷地内で花火をしたり、外食や、花見など外出の機会を作っている。また、「家族連絡票」を活用し、伝え漏れをなくし、伝えた内容、ご家族からの意見やその後の経過がどの職員にもわかるようにし、面会時にはお茶をお出しし居室でご本人とゆっくり過ごしてもらいながら、職員とも話をする時間を作り、信頼関係の構築にも力を入れている。地域とのつながりも大切にし、定期的な運営推進会議の中で意見交換を行ったり、地域の行事に参加したり施設の行事に参加して頂いたり、地域の方との親睦を深める他、避難訓練にも参加して頂き、緊急時の協力体制を築いている。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほほ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほほ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほほ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほほ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほほ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほほ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほほ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほほ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほほ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほほ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほほ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価（Ｂユニット）	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	フロア内に事業所理念を掲げている。日々のケアの中での問題点を話し合う際に、理念を再確認し実践に繋げるように努めている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	盆踊りやお祭りなど、地域の行事に参加し、交流の機会を作っている。また、避難訓練に参加して頂くように声掛けしている。町内会の資源回収に協力したり、防犯協力店に加盟し、お互いに支えあえる関係性を築いている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や避難訓練の際に、認知症の方の行動や支援の方法について話す機会を設けたり、積極的に実習生を受け入れ、人材育成に貢献している。又、町内会館や運営推進会議の中で認知症サポーター養成講座の開催を検討している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度運営推進会議を開催し、外部評価や避難訓練などで受けた話を報告し、御家族からの意見・要望を聞く場を設けたり、事業所としての改善点をお伝えし、サービスの向上に努めている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市に月初めに入居状況の情報提供を行っている。事故報告書などの報告書を提出し、改善に向けて助言を頂いたり、市が主催する集団指導・管理者連絡会に参加している。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束、不適切ケアについての研修会を毎年行い、研修を通して自分たちのケア（言葉・態度・対応）の振り返りを行い、身体的にも精神的にも拘束をしないケアに努めている。また、日中は玄関を施錠せず、開放的なケアに努めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待についての研修会を毎年行い、学びを実践につなげる為、虐待の定義、身体拘束の禁止事項を事務所の目に付く場所に掲示し、日頃から意識し、日々の業務の中でも話し合い、無意識にも拘束、虐待につながるケアを行わないよう努めている。		

グループホーム ほほえみ

自己評価	外部評価	項 目	自己評価（Ｂユニット）	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部の研修会に参加したり、運営推進会議の機会に司法書士を招いて講話して頂いたことはあるが、職員全員が制度を理解して支援できる体制は整っておらず、今後事業所内の研修会などで学ぶ機会を作っていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には時間をかけて説明し、不明な点や不安な点など伺い、納得を得て契約できるようにしている。また、契約内容の改定時には、説明会を開催する他、必要に応じて個別の相談に応じ、同意を得るようにしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	話しやすい関係性を築けるよう努め、運営推進会議で話し合う機会を設けたり、面会時に意見を伺い、頂いた意見や要望はユニットに留めず、運営推進会議や管理職会議などで、地域の方や他のユニットにも周知し、運営に反映させている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	小まめにユニット間を行き来し、話しやすい関係を作っており、出た意見や提案はできる限り反映させるよう努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者が現場に来ることはないが、勤続年数に応じて記念品を贈ったり、勤続年数、保有資格によって条件を優遇したりと、向上心を持って働けるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	経験年数に合わせた法人内の研修会を実施し、学びと実際のケアが結びつく様働きかけている。また、外部の研修会の案内を提示し、職員一人一人に合った研修会への参加を勧めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の事業所と合同研修を開催する他、関連のある薬局と薬に関する研修会を行ったり、実習生を受け入れて日頃のケアの見直しを図りサービスの質の向上に努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価（Ｂユニット）	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に直接面会し、ゆっくり話をして顔見知りの関係性を作ることで、安心してサービスを利用できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の話をじっくりと聞き、事業所で出来る事やケアの提供の仕方を伝え、不安や希望をお聞きし、要望には可能な限り答えられるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族や本人の話を聞き、本人の様子を見極め、その時最善と思える方法を一緒に考え、提案している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る事はお願ひしたり、調理方法を教えてもらうなど、人生の先輩として相談したり、話をしたり笑いあったりと、一緒に生活している中で支えあえる関係づくりを心掛けている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月の手紙や電話、面会時に最近の様子を伝え、ケアの方向性などについて相談し、家族の意見や本人の思いを取り入れたプランの作成を心掛け、一方的ではなく家族と共に本人を支えあう関係性づくりに努めている。また、買い物や受診に同行してもらったり、面会時に居室でゆっくり過ごして頂くなど、家族と本人とのつながりを持てるよう支援している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	かかりつけの病院継続や、行きつけの店へ外食する機会を作りこれまでの関係性が途切れないよう支援している。だが馴染みの方が面会に来ることは少なく、ADL低下に伴い外出する機会が減っている。日頃の会話の中で、昔住んでいた場所や知り合いの話などを引きだしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お互いの関係性、相性などを把握し、気の合う方同士で作業をしたり、座席の配慮をし、互いの存在がストレスにならないよう、スタッフが利用者同士の距離を測り、互いに気持ち良く生活できるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価（Ｂユニット）	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	亡くなられた方には1周忌にお線香を送ったり、近所で顔を合わせた時には声をかけ話をしたり、入院での退去の場合は、御家族に了承を得てお見舞いに行かせて頂いている。必要があれば相談に応じたり支援できるような関係性を築きたいが、御家族の心情を察すると中々、踏み込めず連絡が出来ないのが現状である。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の生活の様子から気持ちを汲み取り、本人の意向に沿った過ごし方を支援するよう努めている。また、ご家族の意向も伺いながら、本人にとってより良いと思える生活を支援している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人やご家族から、これまでの暮らし方や好みなど伺う他、これまでのサービスの情報をもとに、これまでの暮らしの把握に努め、安心して生活できるよう支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常の様子を細かく記録し、申し送りや連絡ノートを活用し、情報を共有して現状の把握に努め、状況に合わせたケアができるよう努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月モニタリング、ケアカンファレンスを行い、意見が偏ってしまわないように、職員全体で話し合いを行い、一人一人の意見を聞くように努め、また、出てきた意見はご家族に相談して、ケアプランに反映している。また、変更があった場合は、毎月のお手紙や面会時などで説明を行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録には、誰が見てもその時の其の方の様子がわかるように細かく記載するよう心掛けている。他、ヒヤリハット報告書や連絡ノートにも気づきや工夫を記載して情報を共有し、ケアプランの見直しや日々のケアの実践につなげている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	事業所として出来る事は協力し、事例のない案件にも柔軟に対応出来るように、御家族と相談している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	防犯協力店に加盟し、地域の児童が挨拶に来た時には中まで入ってもらい交流の場を作ったり、盆踊りや夏祭り、神社のお祭りなどにも出向き、楽しみを持って頂けるよう取り組んでいる。また、避難訓練には町内の方にも参加して頂くように声を掛け、緊急時に備えている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問診療、訪問看護による健康管理体制を確立している他、入居前からのかかりつけ医への受診も継続し、関係を切らないよう支援している。また、必要に応じて家族にも受診の付き添いをして頂き、医師と家族、本人との仲介をし、適切な医療が受けられるよう努めている。		

グループホーム ほほえみ

自己評価	外部評価	項 目	自己評価（Ｂユニット）	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に一度、健康管理記録で情報を伝え、やり取りを行っている他、毎週訪問看護に来ていただいております。訪問時以外でも、何か変わったことや気になる点などあれば連絡し、長年なじみのある看護師と相談できる体制が出来ています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時や入院中、早期退院に向けて情報交換を小まめに行うよう努めているが、家族以外には話せない、と言われる事もあり、その際はご家族から話を聞いて頂き情報共有に努めている。また、退院してからも安心してホームで生活ができるよう、継続して通院したり、連絡を取っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化に伴い考えられるリスクや、今後予測される事などを、面会の際などに話し、ご家族の意向を把握するように努めているが、終末期に向けての話し合いは具体的には進んでおらず、今後具体的な方針を話し合っていく必要がある。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に応急救護の研修を行い、全ての職員が学ぶ機会が作れるよう取り組んでいる。また、事故発生時のマニュアルを作成し、いつでも確認できるよう保管している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、夜間を想定した避難訓練を行っている。。また、避難訓練には毎回町内の方にも参加して頂くように声を掛けているが中々、参加の機会を得られていないのが現状である。		

Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーに配慮し、一人一人に合わせた声の掛け方、接し方を心掛けている。職員同士、気づいた事は声を掛け合い、敬う気持ちを忘れないよう持ち、個々の人格を尊重できるよう努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個々に合わせて質問の仕方など変え、決めやすいように二者択一で質問したり、選択肢を提案したりし、自己決定できるよう努めている。また、意思表示の難しい方からは、表情や仕草から思いを汲み取るよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ある程度一日の流れはできてしまっているが、その中で、出来る限り一人一人のペースに合わせた対応を心掛け、希望に添えるよう対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問美容を利用したり、衣類の購入と一緒に出掛けたりしている。整髪や髭剃りなど、自分で行う方には声を掛けて行って頂いたり、その日に着る服を本人の好みに合わせて選ぶ手助けをしたりしている。		

グループホーム ほほえみ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(Bユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	決まったメニューの中でも、味付けを変えてみたり、利用者の好む調理法を選択し、提供している。また、下処理や調理法を利用者に教わったり、盛り付けや片付けなどを一緒に行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士が立てた献立を元に、偏食の多い方には出来る限りその人が食べやすい調理法を工夫したり、代替品を用意するなどして、栄養が偏らないよう配慮している。また、一人一人に合わせた水分量を考慮して対応する他、その日の状態に合わせて内容や量の調整を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は口腔ケアをして清潔を保つと共に、口腔内に異常が無いか観察するようにしている。口腔ケアが難しい方には歯科医に相談しその方に合った口腔ケアの実践方法をアドバイス頂いている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表をもとに排泄パターンを把握し、出来るだけトイレで排泄が出来るように誘導している。必要に応じてカンファレンスなどで都度話し合いを行い、その方に合わせた対応に努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便の状態に合わせて水分量を調整したり、牛乳や乳酸菌飲料を勧めるなど、内容にも考慮している他、軽い運動を促すなど、薬だけに頼らない様対応している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の時間帯、頻度など、大まかにスケジュールはあるが、入る順番や時間帯、湯の温度など出来るだけ希望に添えるよう対応している。また、ゆっくりとお湯に浸かり、入浴を楽しんで頂けるよう努めている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人に合わせて、日中休息時間を作ったり、活動に参加して頂き、メリハリのある生活リズムを作り、夜間良眠できるよう努めている。また、本人の体調なども見て、長めに休む時間を作ったり、無理に起こさず休んで頂いたり、臨機応変に対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服変更があった時などには、その後の変化を注意深く観察し、記録に残すようにしている。リスクについてもしっかりと頭に入れて観察し、その薬が合っているのかなど、スタッフ同士で話し合い、医師に相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その人が出来る事、得意としている事を活動内容に盛り込み、役割を感じて頂けるよう心掛けている。また、その人が好む音楽を流したり、他ユニットの利用者と外出など行事に参加したり日常的にも1階まで散歩に出かけるなど、気分転換を図れるよう支援している。他ユニット利用者とオセロや将棋等をする機会を作っている。		

グループホーム ほほえみ

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(Bユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望をあらかじめ伺い、希望に出来るだけ添えるよう調整を行っている。また、買い物や外食など、その人が喜ばれる事を探し、一緒に出掛けられるよう支援している。日常的にも、近所の公園まで出かけたり、施設内の畑や花壇を見に行ったりと、外の空気に触れる機会を作っている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	安全面を考慮し、金銭の管理は家族、ホームで行っているが、買い物の希望がある時には一緒に出掛ける機会を作っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙、葉書や荷物など届いた時には、送り主に連絡できるよう支援している。ご家族の意向も伺いながら、馴染みの関係が出来る限り途切れないよう努めている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	その時々の利用者の様子や状況に合わせて、共有スペースの家具の配置を調整したり、季節の飾りつけを行い、季節を感じ、居心地良く過ごせるよう努めている。また、事故につながりそうな危険がないかも注意をして観察し、リスク管理にも努めている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人になれる空間がありながらも、周りの気配を感じられる配置を作っており、共有部分も、気の合う者同士で過ごせるような配置を心掛けている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の家具や飾りは、出来るだけ本人の馴染みのある物を置き、配置は本人、家族と相談しながら、安全面にも考慮しながら設置している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの位置に目印を付けたり、動作の流れや方法などを張り紙にして、出来る限り自立できるよう工夫している。また、行動の妨げや危険にならない様、フロア内の物の配置には気を配り、安全に移動できるよう努めている。		

(別紙4-2)

目標達成計画

事業所名 グループホーム ほほえみ

作成日：平成 29年 3月 12日

市町村受理日：平成 29年 3月 14日

【目標達成計画】

優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	23	6ヶ月毎に更新しているアセスメントシートを活用し、 趣味なども追加しながら、書面でも利用者の現在の想 いを把握できる。	アセスメントシートに趣味なども記載し、利用者の想 いを把握するようにする。	利用者の過去の情報や家族などに本人の趣味などを 聞いたり、普段の会話から本人の趣味を聞き、アセス メントシートに記載する。	6ヶ月
2					
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。